

【電波の日記念式典】 OHKのユニバーサルな情報発信の取組み表彰

報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区下石井二丁目10-12、以下OHK）は、OHKが長年続けてきた手話放送などユニバーサルな情報発信の取組みが6月1日、総務省中国総合通信局から表彰されました。

「電波の日」は1950年6月1日に電波法や放送法が施行され、電波の利用が国民に広く開放されたことを記念し制定されたものです。令和5年度「電波の日・情報通信月間」に合わせて広島市で開催された記念式典では、電波の利用や情報通信の発展に貢献した中国地方の個人1人と、OHKのほか8つの団体が表彰されました。

OHKは1993年から30年間にわたり、ニュースの「手話が語る福祉」のコーナーで手話放送を続けているほか、日本で初めてのモータースポーツの手話実況などユニバーサルな情報発信が高く評価されました。

表彰式では、総務省中国総合通信局の和久屋聡局長からOHKに表彰状が贈られました。



OHKのユニバーサルな情報発信への取組み紹介

①手話が語る福祉

OHKが1993年から取組む手話放送活動「手話が語る福祉」は、夕方のニュース内で始まったコーナーで、聴覚障がい者・手話通訳者・テレビ局の3者で「OHK手話放送委員会」を立ち上げ、的確な手話表現にこだわって放送を継続している。

②音訳活動

視覚障がいなどで読書が困難な方に向けて、フリーペーパー「さりお」と、OHKのキャラクターOH!くんの絵本シリーズを音訳。



③さらなる岡山モデルの構築

OHK手話放送委員会に加え、遠隔手話通訳による記者会見の導入（岡山県、総社市）、手話・字幕・音声で案内が表示されるユニバーサル対応動画「シュワQ」の開発、手話放送の協賛企業表示の4つを岡山発で取り組む。

④市内中心部2拠点体制で情報バリアフリー社会の実現を目指す

情報のバリアフリー精神をもとに可視化されたOHKまちなかスタジオミルンと、岡山の新たなランドマーク「杜の街グレース」に位置する本社の2拠点で、社内外と連携し、“情報から誰一人取り残されない”社会実現に向け、企画・アイデア提案に取り組む。